

ちよつといひ話

～ 虚心坦懐 ～

4月21日に地藏尊大祭が終わり、一息つく暇もなく翌22日、善覚上人のお供をして総本山知恩院に向かいました。毎年、知恩院では法然上人の法事が厳修ごんしゆされています。この行事を、御忌法要ぎよきと呼んでいます。この行事の最後に、永年僧侶として精進しやうじんされた事に対して、浄土宗より寿賀式じゆがを挙きよこう行していただき、善覚上人が知恩院住職中村御法主ごほつすより表彰を受けました。善入院といたしまして、とても喜ばしいことです。この度の事は、檀信徒ごうりゆうの皆様が日頃より厚い信仰の中に生活し、住職と共に寺門の興隆あかしに尽力されている証です。心より、感謝申し上げます。現在、私たちが受ける喜怒哀楽は、欲心の満たされる度合に応じて大きく左右されます。行動の善悪は、到底私たちの判断力では充分とは言えません。実に、善行が意に反して善の結果を生まず、異なってしまうことが多々あります。まして、その事に気付かないこともあるのです。「礼記」の中に、“学びしかて然る後のちに足らざるを知り、教えて然る後しかに困のちしむを知る”とあります。虚心坦懐に受け止め、実行したいものです。“満れば欠くる”と言われていますが、精進し受ける器うつわを大きくしましょう。そして、私たちが一日も早く心眼しんがんを開き輪廻りんねてんしょう転生のために精進し、佛果菩提ぶつかぼだいを生しょうずることが出来るように、念々思しもん聞し、この世界では人間のみが自己以外によって死体の始末が出来ることを鑑かんがみ来世に於いて畜生以下に生まれることのない様に注意、注意。心眼を得るとは、一つには欲心を離れ理想の世界に身を置くことです。過日、地藏大祭に六道を巡り、大王の印を頂きましたが、私たちは地獄餓鬼等の生々せいせい流りゅう転する六道輪廻から離れ、菩薩道ぼさつに向かって精進することがお地藏様の最大の望みと知り、素直な気持ちになり、私たちの心構え一つで可能な事ならば、面々にその心意気を見せようではありませんか。

善入院油掛地藏尊